



GOOD NEWS ときのかえ

War Cry 号外

2022
April

二〇二二年 四月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行 (除く七月)

救世軍人へのイースター・メッセージ

わたしは福音を

恥としない

大將 ブライアン・ペドル



「わたしは福音を恥としない。福音は……信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。」
(ローマの信徒への手紙1章16節)

二〇二二年のイースターにあたり、ご挨拶いたします。

使徒パウロは、ローマの信徒への手紙一章一六節で、「わたしは福音を恥としない。福音は……信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです」と語っています。わたしもパウロと共に、イエス・キリストの福音のメッセージの真実と力とその必要性を確信している、と恐れずに宣言します。

イースターとその準備期間であるレントの時は、神による救いの物語を自分の身に引き当てて考える時です。福音の基礎と、その包括的な意味を思い起こすことが大切です。それが私たちの霊的現実と救世軍の使命の根底にあるからです。

あなたがどこにしようと、年齢が何歳であろうと、置かれている環境がどのようなものであろうと、イエス・キリストの福音は良いニュースであり、あなたに直接当てはまり、あなたにつながっているのです。福音はあなたに対する神の愛を示しており、あなたがそれを選択するのを待っています。福音は、恵み、憐れみ、赦し、和解を伝え、復活の力と永遠の命の約束を示しています。福音は、すべてを包み込む聖書の物語を示し、私たちは毎日の生活の中でそれを生きていくのです。

す。ある人々はメッセージの難しい部分を強調するのはやめるべきだ、言います。しかし、それが良いニュースの真髄であり、わたしたちに罪の赦し、悔い改めの道、天国を示してくれるのです。

福音は届けられています。福音は希望をもたらし、現代にも切実に必要とされているメッセージを伝えるための、永遠の広がりをもっています。確かに、わたしたちが今置かれている所で、福音を伝えていくのに適切で、ふさわしい方法を見いだすことが必要です。けれども、イエスのうちに現された神の救いの恵みを語ることに確信をもてないとか、恥ずかしいとか、思う必要はありません。この福音を他の人々と分かち合うことを、イースターの時にできないとしたら、いつできるというのでしょうか？

イースターのことにはよく知っているという方々には、受難週の始まりから終了までの一週間のことはもう飽きた、と言ってしまう危険があります。しかし、二〇二二年のイースターに、わたしたちは今までとは違った新鮮な眼差しを向け、新しい期待を寄せたいと思います。イエスは今でも世界の救い主です。イエスは今でもわたしたちを神へと導く道なのです。

今日の世界は、様々な文化、信仰、見解、慣例などが入り混じった、るつぼで

救世軍よ、今こそ、自分にできるあらゆる方法をもって、この福音をすべての人と分かち合いましょ。そうする中で、わたしたちが、よみがえりのキリストが共におられることに気づきますように。

(救世軍士官(伝道者)・万国総督)

今年のイースターは4月17日(日)です

ウクライナ情勢を受けて 大将からの祈りの要請

2022年2月24日、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が開始され、ウクライナの首都キエフなど各地の軍事施設が攻撃を受け、犠牲者が出ているとの報道がなされました。



救世軍の霊的指導者であるブライアン・ペドル大將は、世界の救世軍のメンバーに対し、ロシアとウクライナの間で発生中の紛争が外交的な解決に導かれるよう、祈りを要請しています。

大將は「神の国に対する救世軍の奉仕活動は国籍や国境を超え、偏見や差別なく進められています。現在、ロシアとウクライナの両国で奉仕している救世軍士官たちがいます。彼らのため、また、この紛争に巻き込まれ悲嘆の中にある方々をおぼえて、祈ってください。この紛争が外交的な解決へと導かれ、平和が速やかに回復し、これ以上の犠牲者が出ないことを祈りましょう」と述べました。

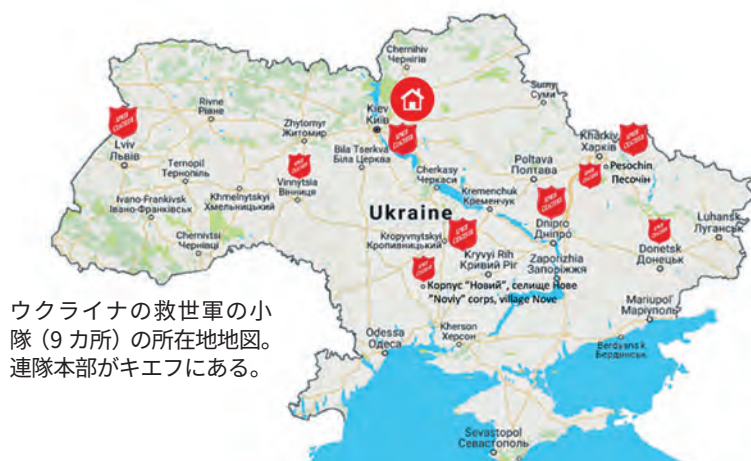
大將は、両国のすべての救世軍士官が負っている重荷をおぼえつつ、こう述べています。「人命が失われていることに深い悲しみをおぼえるとともに、両国で奉仕を続けているキリストにある兄弟姉妹に対して連帯を表明します。」
(2022年2月24日付 救世軍万国本営・ペドル大將のホームページ)

救世軍はウクライナで1993年より活動を開始。キエフ、ハリコフ、ドニプロ、ドネツク、キロヴォフラート、ピソチン、ヴィーンヌィツャ、リヴィウ、ノーヴェに小隊（教会にあたる）があり、国内避難民の発生に際して、食料、宿泊、カウンセリング、運送等の支援を提供しています。

ウクライナの救世軍はモルドバ、ジョージア、ルーマニア、ブルガリアと共に東ヨーロッパ軍国を形成しており、近隣国の救世軍もただちに支援を開始しました。

ルーマニアの救世軍はウクライナとの国境地点で難民に食事、衛生用品、カウンセリングを提供しています。

隣国モルドバの救世軍は、ウクライナからの難民への支援物資を準備しており、子どもクラブの子どもたちがその袋詰め作業の奉仕をしました。また、ウクライナからの



ウクライナの救世軍の小隊（9カ所）の所在地地図。連隊本部がキエフにある。



難民に対して宿泊、日用品、食事、WiFi、24時間ホットライン電話の提供をおこなっています。※支援の情報は2022年2月末のものです。最新情報は救世軍ホームページ www.salvationarmy.or.jp を参照してください。

